

参考になる本の紹介

★印は特にお勧め！

子どもの発達全般 子育て

★『はじめて出会う育児の百科』 汐見稔幸・榊原洋一・中川信子 小学館 3800円＋税
「あせらず、ほかの子と比べず、でも、正しい知識を持って子どもを育てよう」とのコンセプトのもと、妊娠中から4歳までの発達を「こころ」「からだ」「ことば」に分けて記述してあります。妊娠、出産祝いにプレゼントする人が増えていて、著者の一人としてうれしい限りです。「はじめて出会う育児シリーズ」も何冊か続いています。

「きほんの遊び142」「場面別に楽しむ語りかけ」(中川信子)、

「赤ちゃん はてな」「子どもの病気の本」(榊原洋一)

「脳をきたえる『じゃれつき遊び』」(正木健雄ほか)

「ペアレンティング・ブック」(竹内正人)

「絵本であそぼ」(パパ's 絵本プロジェクト) いずれも小学館

『ママが知らなかったおっぱいと離乳食の新常識』 中川信子監修 小学館

2010年 950円＋税

おっぱい、離乳食、お口や歯について、歯科医、栄養士、言語聴覚士などたくさんの職種の人たちへの取材をもとに全容解明？された画期的な本です。自分で言うのもなんですが、ヒトの発達はすばらしいな、神秘だな、と感心させられることうけあいです。

『デンバー発達判定法』 小児保健協会 小児医事出版社 2003年 3000円＋税

コロラド州デンバーで開発された発達検査の日本版です。「発達は早い子も遅い子もいる」と、頭で分かっている、どの程度までが「ふつう」なのかがとても気になるもの。

このデンバーは25% 50% 75% 90%の子ができるようになる時期が一覧になっていて「標準範囲」の幅が分かる、貴重な資料です。

乳幼児健診をめくって

『健診とことばの相談』 中川信子 ぶどう社 1998年 2000円＋税

「乳幼児健康診査」の省略である「健診」を、「検診」だと思っている人の多いこと！

この本では1歳半から3歳の時期のことばの発達を中心に、健診で何をしようとしているのか、子どもの全体発達の中でどう考えたらいいか、日常生活の中で何をしたらいいのか、などを述べました。

チェックのポイントである「行動観察記録表(試案)」はいまだ試案のままですが“気になる子”を見るとき視点として役立てていただけると嬉しいです。

『乳幼児健診ハンドブック～その実際からフォローまで』 平岩幹男 診断と治療社

2006年 2800円＋税

埼玉県で長く乳幼児健診にたずさわってこられた平岩先生の本です。乳幼児健診全体像が見えます。

『乳幼児健診と心理相談』 田丸尚美 大月書店(2010年) 1800円＋税

発達が遅い気がする、障害ではないかと心配、でも、健診で専門家に指摘されたくは

ない……。そんな微妙な時期のお母さんやお父さんにつきあいつつ、時期を見極めて、事実は事実としてきちんと伝える。乳幼児健診と事後のフォローは本当に難しい仕事です。そんな仕事に長く携わってきた心理の専門家の本です。人を支えるとはどういうことなのか、示唆に富んだ本です。

『子どもと親を支える健診』 中川信子 エスコアール 2002年 315円＋税
長く健診後の相談事業に「ことば」の立場からたずさわってきた中川の講演記録です。親子を支えつつも、言うべきことは言う……。それが成り立つためには、自治体全体でのフォロー体制の構築が不可欠ですし、関係職種の連携も必要です。

ことばの発達とことばの遅れ

『1,2,3才 ことばの遅い子』 中川信子 ぶどう社 1999年 1000円＋税
“ことばの遅い子”には、単なる“おくてタイプ”の子と、なんらかの発達上の弱さを持っている子とが考えられます。でも、どちらであれ、子どもの育ちや、望ましい育て方にちがいがあってもありません。「療育とは丁寧に配慮された子育てである」とのことばの通りです。ことばが遅くても、遅くなくても、子どもを育てる上での指針になれば、と書きました。林やよいさんのカットとの出会いになった一冊です。

★『語りかけ育児』 サリー・ウォード 小学館 2001年 2200円＋税
若葉マークのお母さん、お父さんにことばの発達を促すための本を一冊だけ選ぶとすれば、私は迷うことなく、この本を選びます。子どものようすをよく見て、子どもの気持ちに寄り添って、楽しい時間を過ごす。簡単なようでいて、なかなか実行できないことですが、一つずつの場面で具体的にどうすればいいか、手取り足取り書かれています。

『子どもの発達に合わせたお母さんの語りかけ』 中川信子 PHP 2010年 1200円＋税
「かたる」には「親しく交わる」との意味があります。「語りかけ」は「話しかけ」「ことばかけ」とは違います。子どもといっしょに、コミュニケーションを楽しむために、どう関わればいいのかを月齢別に項目をたててお話ししました。

『生まれたときからことばを育てる暮らしかた』 中川信子 保健同人社 2013年 1300円＋税
「健診ってどこを見てるの?」「ことばはどうやって育つの?」「ことばが育つ暮らし方のヒント」「もしお父さんがことば育てをしたらーお父さんのためのヒント」「子どもと一緒に遊びたい」という内容で書いてあります。特に、お父さんが育てるとしたら?の章は、いろいろな人から「おもしろい!」と言ってもらっています。

『ことばのはぐくみ方』 中川信子 NHK出版 2010年 780円＋税
子どものことばの育て方をコンパクトにまとめました。当然のことながら、ことばが遅いかな?という子についてのかかわり方のヒントも入っています。

『場面別に楽しむ語りかけ』 中川信子 小学館 2004年 1200円＋税
「はじめて出会う育児の百科」から派生した本。赤ちゃんに何を話しかけたらいいんだかわからない・・・という新米お母さんたちがとても多いので、役にたてていただければと思います

『発達障害とことばの相談』 中川信子 小学館 2009年 740円＋税
子どもの発達支援に取り組むST（言語聴覚士）の仕事を通して見えてくる子どもの発達の姿、ことばやコミュニケーションの不思議、そしてそれぞれの時期の大人のかかわりについて書きました。STは面白い仕事ですよ、というメッセージを読み取ってくださる方も多いようです。人は人と共にいてこそ人になれる、と思います。

『ことばの遅れのすべてがわかる本』 中川信子 講談社 2006年 1200円＋税
すべてがわかる、とは大げさですが、年代ごとの子どもの発達の姿と、とらえ方、必要な支援をまとめました。たくさんのカットが、理解を助けてくれます。

「子どものこころとことばの育ち」 中川信子 大月書店 2003年 1400円＋税
子どものことばは訓練したり、無理やり教えても、なかなか身につくものではありません。からだのところとことばとを全部あわせて生活の中で自然に伸ばしていこうと考えるのが正道。幼児期から思春期、成人期までを見通すと、こころの育ちを大切に育てることがどんなに大事か分かってきます。

『ことばが伸びるじょうずな子育て』（小冊子） 中川信子 家族計画協会 250円
『発音をはっきりしないとき』（小冊子） 中川信子 家族計画協会 100円

2冊とも健診の際に保護者に配布するための冊子として作ったものです。
題のとおりの内容で、障害があるとかないとかにかかわらず、ことばが伸びるにはどうかかわったらいいか、発音の育ちをどうサポートしたらいいかをシンプルにお伝えした簡便な小冊子です。母子保健用教材なので数がまとまらないと買えませんが、（株）エスコアールにお願いして一冊から買えるようにしてもらいました。

遊び、かかわり方

★『育てにくい子にはわけがある』 木村順 大月書店 2006年 1500円＋税

★『発達障害の子を理解して上手に育てる 幼児期編』 木村順 小学館 2012年

『発達障害の子の感覚遊び、運動遊び』 木村順 講談社 2010年 1300円＋税

『発達障害の子の読み書き遊び コミュニケーション遊び』 〃 2011年 1300円＋税

『発達障害の子の小学校で困ることを減らす親子遊び10』 小学館 2013年 1300円＋税

感覚統合とは、脳に流れ込む刺激を上手に交通整理すること。育てにくかったり、発達障害があるかもしれない子は、その交通整理が上手にできない状態にあると考えられます。どういう遊びや働きかけをしたら、混乱している交通をスムーズにしてあげられるかを具体的に提案されています。

最初に読むなら大月書店の一冊が一番お勧めです。小学館、講談社の本はいずれも挿絵が多いので、わかりやすく「なーるほど！」って言っていただけたらと思います。

遊びの意味が理論的にわかれば「毎日遊んでいるだけでいいのかしら？何か専門的な働きかけをしないと、ムダな時間を過ごしているようで・・・」という保育士の方たちの悩みも解消するでしょう。

『気になる子どもの“できた！”が増える 3・4・5歳の体・手先の動き指導アラカルト』

『気になる子どもの“できた！”が増える 体育指導アラカルト』

笹田哲 中央法規 2013年 1800円＋税

作業療法士による感覚統合の実際の本です。写真がたくさん使われていて、具体的にどんなかわかりやすくしてあげたらいいのかがよく分かります。

「ココロとカラダほぐしあそび 発達の気になる子といっしょに」 二宮信一他 学研ラポムブックス

2005年 1600円＋税

感覚統合という視点を持ちつつ、小集団やクラスで遊ぶときのヒントの数々が載っています。日ごろ何気なくやっている遊び意味が説明してあります。健診後のフォローグループなどで、どんな遊びの組み立てをしたらいいのか迷うときにも助けになるアイデアがたくさん載っています。

『きほんの遊び 142』 中川信子 小学館 2004年 1300円＋税

月齢ごとに分けて、子どもの喜ぶ遊び、子どもの発達に役立つ遊びの例をあげてあります。最近では「赤ちゃんと遊ぶ、ってどういうふうにすればいいのでしょうか？」と途方に暮れる親ごさんによくお会いします。「わらべ歌などもいいですよ」と言っても、「わらべ歌を知りません」という方も。この本には柳家花録さんのわらべ歌のCDが付録についているので、一緒に歌えます。

『親子で楽しむふれあい遊び』(小冊子) 中川信子 家族計画協会 2011年 250円＋税

乳幼児健診の場で保護者に配布するために作りました。「いないいないばあ」などを教えてあげないと知らないお母さんたちのいる時代になりつつあるようです。

ちょっと気になる子(発達障害の可能性のある子)について

「十人十色なカエルの子」 落合みどりほか 東京書籍 2003年 1600円＋税

多様な特性を持つ子どもたちの行動が、カエルの子どもたちを主人公にした絵本形式で説明されています。子どもたちが成長し、自分がみんなと違うことに悩むようになった時に、この本を使って説明した、という親ごさんや先生も少なくないようです。後半には発達障害の解説もあります。

「おっちょこちよいにつけるクスリ～ADHDなど発達障害のある子の本当の支援」

高山恵子＋えじそんくらぶ ぶどう社 2007年 1600円＋税

ADHD当事者の会である「えじそんくらぶ」とその代表を務める高山恵子さんによる本です。「子どもが『苦手なこともあるけど、得意なこともある』と思うことができ、決して自分をマイナスイメージでとらえない、という自己理解が大切です」とのメッセージが伝わってきます。

「新版 のび太、ジャイアン症候群」 司馬理英子 主婦の友社 2008年 1600円＋税
ADHDを、衝動性の強いジャイアンタイプ、多動ではないけれどアタマの中の整理がつかないのび
太タイプとを引き合いに出して説明されると、何だかとても納得できます。お医者さんによる本で
すが、レッテル貼りに陥らず、子どもを理解する助けになりそうです。シリーズでたくさん出ています。

『ママがする自閉症児の家庭療育』 海野健 HACの会 1800円 直送のみ
<http://homepage2.nifty.com/hac2001/>

対人関係が取りにくい子どもたちを、追いかけてこやいないいないばあ、お手伝いなど
を通して、「仕事のできる子に」育つようにと考えてある本です。並んで仕事をする中
で自然に対人意識が芽生えるというのは本当のこと。生活に目を向けるのが○です。

保育・教育の中の子どもたち

★「気になる子もすごしやすい園生活のヒント」 あすなろ学園 学研 2010年 1600円＋税
三重県のあるなろ学園の先生方による本。特別な子への特別な支援ではなく、通常の保育の
中で、どう理解し、どう配慮したらいいかを述べた画期的な一冊。登園からの時間を追ってさ
まざまなシーンを想定し、カットを多く使って解説してあるのも、読みやすく親切です。

★「実践満載発達に課題のある子の保育の手だて」 佐藤暁 岩崎学術出版
分かりやすさに定評のある佐藤暁先生の本。通常のクラスの中で、先生方が実際に行っている
工夫がたくさん紹介されています。明日からでもできそうなヒントがたくさん！

「わかってほしい！気になる子～自閉症、ADHDなどと向き合う保育」
田中康雄監修 学研 1600円＋税
どこのクラスにもいる「気になる子」をどうとらえ、どうサポートしたらいいか、さまざまな視点から書
いてあります。他の子にどう説明したらいいか、保育者同士の連携の取り方、保護者をどうサポー
トできるか、など現実的な問題に現場の先生方がていねいに答えます。

『心の保育を考える ケース67』 学研編集部 学研 2003年 1600円＋税
保護者にしがみついて泣く、乱暴やいたずらが目に余る、練習ではできたのに本番ではお
お泣き、など、日常にありがちな場面を取り上げ、コンパクトに、でも的確に対処の方法を提案し
てあります。一冊全部読まなくても、今困っている問題の項目だけ読む、という使い方もできて
便利。

「ADHD及びその周辺の子どもたちー特性に対する対応を考える」尾崎洋一郎他 同成社

「見て分かる 困り感に寄り添う支援の実際」佐藤暁 学研

「通常学級での特別支援教育スタンダード」日野市公立小中学校 東京書籍

この3冊は、学齢期の人たちを対象としています。特別支援教育に関しては、本当にたくさんの
すぐれた本が出ているので、ここでは、ごく簡単に紹介しました。

親たちの気持ち

『ころをラクに あたまをクリアに～遅れのある子をはぐくむ親と専門家のために』

大林泉 ぶどう社 2003年 1600円＋税

心理相談員として相談を受ける側だった著者のお子さんに発達の遅れがあることが判明し、一転、相談する側になりました。その経験を通して、遅れや心配を持った親の不安や悩みに焦点をあててあります。専門家に望むことも記述されています。保護者にも専門家にも。

『子どもの障害をどう受容するか』 中田洋二郎 大月書店 2002年 1300円＋税

専門家は「障害の受容」を簡単に口にします。でも、保護者が、わが子の障害を認め、受け入れるのは容易なことではありません。慢性的悲哀という状態にいる、ともいえるからです。保護者の気持ちを理解し、よりよい関わりを作り出せる専門家となるために、読んでおくといい本です。

『うちの子、ことばが遅いのかな・・・』 言の葉通信編 ぶどう社 2000年 1500円＋税

『ことばの遅い子 学校へ行く』 言の葉通信編 ぶどう社 2002年 1500円＋税

「ことばが遅い」という心配を抱える親たちのサークル「言の葉通信」に集った人たちの投稿を集めた貴重な本です。ただ遅いだけで自然に卒業して行った子もいれば、徐々に障害の様相がはっきりしてきた子もいます。親としての気持ちを知り、深く支えることができたらと思います。

場面緘黙、吃音について

『なっちゃんの声～学校で話せない子どもの理解のために』

はやしみこ(かんもくネット監修) 学苑社 2011年 1600円＋税

たいていの園や学校に、お家や慣れた人となら何でもお話しするのに、一歩外に出ると一言も話さない子たちがいるでしょう。画面緘黙(かんもく)とか、選択性緘黙といわれます。無理に話ささようとはせず、でも、ただ様子を見るだけではなく、応援するやり方があります。子ども自身の気持ちがよく分かる絵本です。後ろに専門家の分かりやすい解説があります。

『場面緘黙 Q&A 学校でおしゃべりできない子どもたち』

かんもくネット・角田圭子 学苑社 2008年 1900円＋税

「かんもくネット」は緘黙の子を持つ当事者と、心理職などの支援者が作っている団体です。啓発のためにいろいろな活動をしています。この本も、今まであまり取り組まれることのなかった緘黙について、現在分かっていることをまとめて伝えています。

『子どもがどもっていると感じたら～吃音の正しい理解と家族支援のために』

廣島忍＋堀彰人 大月書店 2004年 1500円＋税

吃音は幼児期から成人期まで、各年代での支援が必要です。「そのうちに自然に軽くなる」面もありますが、幼児期からの正しい配慮は必要です。分かりやすい本です。

『エビデンスに基づいた吃音支援入門』 菊池良和 学苑社 2012年 1900円＋税

ご自分が「吃音ドクター」と名乗る医師による吃音支援の入門書。医学者としての冷徹な目と、吃音体験者としての熱い思いが絡み合ったユニークな本です。吃音のある人への支援に携わる人や関係者に。

発達障害について

『発達障害の原因と発症メカニズム——脳神経科学からみた予防・治療・療育の可能性』
黒田洋一郎 木村・黒田純子 河出書房新社 2014年 2300円＋税
発達障害は生まれつきの要因と生後の環境や接し方の両方が関係しているという現場の実感が、脳科学の立場から、明らかにされようとしています。基本的な暮らし方を大切にすることが、あらためて、強調されるきっかけになるといいのですが。

『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田直樹 エスコアール 1600円＋税
『風になる—自閉症の僕が生きていく風景』 東田直樹 ビッグイシュー-日本 2012年 2197円
会話のできない重度の自閉症である東田くんですが、練習して、文字で心のうちを伝えることができるようになりました。彼が語ってくれる自閉症の人の気持ちは、今まで想像もつかなかったことばかりです。2014年8月にNHKで放送されたドキュメンタリー「君が僕の息子について教えてくれたこと」は、東田くんの本を英語に翻訳したアイルランドの有名な作家との交流を描いて、大きな反響を呼んでいます。本は欧米で異例のベストセラーになっています。

『自閉っ子 こういうふうにできてます』 ニキ・リンコ 藤家寛子 花風社
「コタツに入ると足がなくなる」「雨粒が痛い」などで有名になった本です。
発達障害の人たちの感覚の過敏さや鈍感さが、生活していく上でどんなに大変かをユーモアたっぷりに教えてくれます。
花風社からは、この本の後にも、たくさん本が出ています。

~~~~~

## DVD

『ことばを育てる語りかけ育児』 中川信子監修 アローウィン 2011年 15000円＋税  
赤ちゃんの時期から親子でしっかり目を合わせることで、子どもの興味に大人があわせながら、心とことばをやり取りして、ことばが生まれてくるようすが、64分にまとめられています。「興味のないことの無理やり誘う」「言わせる」などの強引なかわりが、反抗や乱暴を誘発してしまう様子も、収録されています。日ごろやりがちな望ましくないかわり。あらためてDVDで見ると、反省材料となります。

## ホームページなど

中川信子 ホームページ「そらとも広場」 <http://www.soratomo.jp>

全国言友会連絡協議会（吃音パンフレット） <http://www2m.biglobe.ne.jp/~genyukai/>

かんもくネット（場面緘黙の当事者団体） <http://kanmoku.org/>

東京都教育委員会パンフレット「乳幼児期を大切に」ダウンロード

[http://www.nyuyoji-kyoiku-tokyo.jp/pdf/nyuyojiki\\_taisetuni.pdf](http://www.nyuyoji-kyoiku-tokyo.jp/pdf/nyuyojiki_taisetuni.pdf)